

レジリエンス協会 公開研究会

# まとめと今後の展開について

増田幸宏

芝浦工業大学 システム理工学部 環境基盤研究室  
一般社団法人 レジリエンス協会 副会長  
日本危機管理学会 会長  
豊橋技術科学大学 客員教授

▶ UNDRR文献の国際的サステナブル評価指標を参考に、「サステナブル評価指標（日本版）」の試案

▶ レジリエント & サステナブルなCitiesに重要な  
**3つの資質群**  
連携力  
環境適応力  
次世代対応力

- ✓ 本日は公開研究会 -協会のアフターコロナのハイブリッド活動
- ✓ 別々の目標や様々な指標が同じ方向を向いている何故か
- ✓ レジリエント & サステナブルなまちづくりは進むのか？  
既存の延長線上のアプローチではない取り組み  
これまでの経験が通じない課題への対応  
部分最適と全体最適の課題
- ✓ 学生を起点とした議論、勉強会
- ✓ 国際的な議論と同じ枠組み、言葉を使いながら Think globally, act locally（日本への適用）  
社会に送り出す
- ✓ システム的なアプローチ、プロセスデザイン、（関連データの取得も含む）
- ✓ 不確実性が高い社会だからこそ、手順、判断基準、ルールをあらかじめ定めておく  
「見える化」が重要



- ✓ いずれも難題、行き詰まっている。
- ✓ これまでの社会システムで取り残された課題、解決できなかった課題。新しいアプローチが求められる。
- ✓ 新機軸が必要である。
- ✓ 社会は様々なシステムが相互に関係し合って成立している。それぞれの課題は相互に関連している。
- ✓ 対象とした問題の所在をどう捉えたか、そして複数の問題がどのように絡んでいると考えたのか。
- ✓ システム的思考で対象を捉え、全体性を保ったまま議論をすることが不可欠（総合的・多層的アプローチ、複数課題の統合的・同時解決）